

西巖殿寺：歴史の概説

約 1300 年の歴史を持つ西巖殿寺は、九州で最も古い寺のひとつです。この寺は、インドから来た最栄（704-760）という僧侶によって 726 年に創建されたとされます。2022 年 8 月に建てられた現在の小さな建物は、2016 年の熊本地震とそれに伴う阿蘇山の火山活動によってひどく損傷した 1890 年建造のより大きな建物を建て替えたものです。

西巖殿寺は自然災害だけでなく、人間の歴史の潮流にも翻弄されてきました。この寺はかつて繁栄を誇った火山信仰の拠点であり、恋人たちの参詣地であり、また素朴な寺院や修験者たちの庵が密集する場所の中核でもありました。しかし、明治時代（1868-1912）の初め、新しい国家主義政府は、仏教を外国から輸入された望ましくないものとししました。西巖殿寺は十一面観音（仏教の菩薩）と健甞龍命（神道の火山の神）の両方を祀っていたため、廃寺となりました。寺の本堂は 1871 年に阿蘇の町に移されました。しかし、明治政府の反仏教運動は次第に勢いを失い、山上の寺院は参詣者を迎えるために 1890 年に再建されました。